

GO2プロジェクト Home Page

GO2プロジェクトとは？「江津プロジェクト」の意。「江津」と書いて「ごうつ」と読みます。「ごうつ」だからGO2と文字りました。

地域の資源を活かした新しい製品と市場づくりを目指します。
これがGO2プロジェクトの目的です。「桑の実」が、最初のキーワードです。

TOP PAGE 桑の実 桑の実パン イベント情報 ごうつ市って？ お問い合わせ



桑畑

江津市桜江町（ごうつしさくらえちょう）に広がる桑畑。春の芽生えのころの写真です。



桑の実

桑の果の収穫時期は、5月下旬から6月です。日本では濃い紫色に熟す種類がほとんどです。



桑の実パン

桑の実を使ったパンを商品化しました。江津市の製菓・製パン店「ラ・グランモンテ」で販売しています。



パンを作る人

「ラ・グランモンテ」の大坂務氏が桑の実パンを製造、アレンジ。その味を堪能して下さい。

PROFILE

プロジェクト推進:

[合同会社Feセンス](#)

サイト運営者:

[みらい開拓ビジネスラボ](#)

INFORMATION

- 2013年4月30日 桑の果の果汁を使った「マルベリーグミ」のテスト販売をラ・グランモンテ（島根県江津市）にて5月1日（予定）から開始します。
- 2012年8月27日 9月1日（土）～2日（日）開催の「まるごと石見市」@島根県江津市総合市民センターで桑の実と仁多米をコラボさせた「桑の実米粉パン」を特別販売します。
- 2012年7月7日 ホームページを開設しました。

[RETURN TO TOP](#)

copyright©2012 Miraikaitaku Biz Lab all rights reserved

GO2プロジェクト Home Page

GO2プロジェクトとは？「江津プロジェクト」の意。「江津」と書いて“ごうつ”と読みます。“ごうつ”だからGO2と文字りました。

地域の資源を活かした新しい製品と市場づくりを目指します。
これがGO2プロジェクトの目的です。「桑の実」が、最初のキーワードです。

TOP PAGE 桑の実 桑の実パン イベント情報 ごうつ市って？ お問い合わせ

桑の実

■GO2プロジェクトとは

「桑の実」というキーワードの前に「GO2プロジェクト」とは何かを記しておきたいと思います。ヘッダーの右にも記載していますが、「地域の資源を活かした新しい製品と市場づくりを目指す」のがこのプロジェクトの目的です。江津市（ごうつし）から展開するプロジェクトですので「GO2プロジェクト」と称しています。ではなぜこのプロジェクトをスタートさせたかたですが、それはこのホームページを作成している松崎みゆきが江津市のビジネスプランコンテスト（2010年）に応募したのがきっかけです。地域に根差した産業を作るには、やはり地域の資源を活かすことが一番よいという考えがありました。その考えをベースにプランを作成しました。このプランの中心においたのが、「桑の実」なのです。

■桑の実である意味は

ビジネスプランを出す以前に、桑の実とはホームページ上で出会っていました。出会うというより探したといった方が適切かもしれません。そのころ貧血に悩んでいたため鉄分の多い食品を探索していました。鉄分の多い食品ではレバーやひじき、ブルーベリーなどは一般的によく知られていましたが、レバーを頻りに食べるには抵抗がありましたし、ひじきも毎日となると飽きてしまう、他にないものか、というのがそのときの思いでした。インターネットで調べ始めると意外にも生のブルーベリー100gと生の桑の実100gでは桑の実の方が鉄分を多く含まれているとありました。

そこで「桑の実がないものか」と探すと島根県江津市桜江町（ごうつしさくらえちょう）にあることがわかったのです。わざわざ海外から輸入されたブルーベリーではなく、国内の桑の実で十分と思った次第です。

■桑の実を知る

2011年から現地を訪ね、「桑の実を知る」ことを開始しました。「知る」とは、性質や成分を自分自身で確かめるという行為です。「桑の実」が存在する歴史的背景ももちろん含まれます。日本の明治から昭和の戦後数年までは、国力を高める上で生糸輸出に力が注がれました。そのため、この時代をご存知の方、もしくは、幼少期を過ごした方にとっては桑や桑の実が馴染み深いものです。しかし、それ以降の方には、理科で習ったカイコの食べ物（桑葉）程度の記憶と童謡「赤とんぼ」の歌詞にあったかなと思うようなものです。世代による桑の実の印象ギャップも考えながら、そして、桑の実の性質や成分を把握しつつ、商品企画を進めています。

■まずは地元地域での展開

地域にある資源を活用という視点から、そして地元の方々に「地元の産物」意識を持っていただけたら、という思いで一般食との組み合わせから展開を図りました。それが「桑の実パン」の商品化です。製造・販売は地元の製菓・製パン店「[ラ・グランモンテ](#)」の大坂務氏にお願いすることができました。「桑の実パン」の拠点として2011年12月末から販売を開始しています。

■今後の展開－地元以外に向けて

地元地域での「桑の実パン」周知を行いつつ地元以外の地域に向けての展開も進めつつあります。性質・成分を見極め、商品を企画しています。複数回の試作を行い、来春（2013年）の販売開始を予定しています。このページにはまだ詳細を記載することはできませんが、商品発売の少し前にはお知らせを兼ね、情報のアップデートをさせていただきます。



◆写真は熟しはじめた桑の実：収穫期は5月下旬～6月の年1回

<記載：2012年7月7日>

RETURN TO TOP

copyright©2012 Miraikaitaku Biz Lab all rights reserved.

GO2プロジェクト Home Page

GO2プロジェクトとは？「江津プロジェクト」の意。「江津」と書いて“ごうつ”と読みます。“ごうつ”だからGO2と文字りました。

地域の資源を活かした新しい製品と市場づくりを目指します。
これがGO2プロジェクトの目的です。「桑の実」が、最初のキーワードです。

[TOP PAGE](#) [桑の実](#) [桑の実パン](#) [イベント情報](#) [ごうつ市って？](#) [お問い合わせ](#)

桑の実パン

料理研究家の田村協子氏により基本レシピを作成いただき、2011年12月より島根県江津市（ごうつし）の製菓・製パン店「ラ・グランモンテ」を営む大坂務氏によって製造・販売を開始いただきました。

桑の実には、鉄分が多く含まれています。鉄分が不足しがちな女性の方には、ぜひ食して頂きたいです。



写真は、大坂 務氏
「ラ・グランモンテ」店内にて、桑の実パンのカゴを手に。

東京、大阪、名古屋、福岡といった都市部では店頭で売られるパンはハードパンが主流です。が、高齢世帯が多い地方ではソフトパンの方が人気です。右写真の試作ではハードパンも含まれていますが、店頭での販売は、

- やわらかベーグル
- 胡桃も入り桑の実パン

から販売を始めています。

ベーグルには、桑の実ペーストが入っています。おやつがわりにお試しください。胡桃入り桑の実パンは朝食がおすすめです。



ブリオッシュ等の試作



「ラ・グランモンテ」店内にあるティールーム

★桑の実パンのバリエーションを今後もご期待ください。お店へのアクセスは下記の通りです。



◆「ラ・グランモンテ」へのアクセス◆

島根県江津市二宮町神主八216-10
TEL: 0855-53-2886

GO2プロジェクト Home Page

GO2プロジェクトとは？「江津プロジェクト」の意。「江津」と書いて“ごうつ”と読みます。“ごうつ”だからGO2と文字りました。

地域の資源を活かした新しい製品と市場づくりを目指します。
これがGO2プロジェクトの目的です。「桑の実」が、最初のキーワードです。

TOP PAGE 桑の実 桑の実パン イベント情報 ごうつ市って？ お問い合わせ

ごうつ市（江津市）って？

GO2プロジェクトの江津市（ごうつし）を紹介しておかないといけません。江津市（ごうつし）である意味を単純に申せばここに活かしたい地域資源－「桑の実」－があるからに他なりません。紹介の項目も整理して行わねばと思いますが、東京方面から出張しつつこのプロジェクトを進めている事情から、まずは位置情報を紹介するのがよいかと思えます。江津市（ごうつし）の行政の方の悩みには、地名を正しく読んで頂けないことがその一つとか。地名の読み方の悩みはどこでもあるので仕方がありません。ですので、敢えて、この文章を書いている中で気づいた限りは「ごうつし」のふりがなを括弧書きで付与しています。このページのタイトルは敢えて「ごうつ市（江津市）」としましたが。

■どこにあるの？

自分が訪れたことのない地域、土地、エリアはもちろんのこと、観光地としてよく耳にすることがある地域以外は、「どの辺？」と思えます。目的があれば別ですが、日本地図を開いて確認をするというのはなかなか普段できないことです。

解決策としては、その地名の自治体ホームページにアクセスするのが現在では一番手っ取り早い方法でしょうか。その時いつも思うのですが、（自治体ホームページの役割の主たる目的が住民向けからとは思いますが、）自治体の“位置”に関する情報が一目でわからないことです。最近では、下方にあるようなGoogleマップを（トップページにはあまり見かけないのですが）「自治体の紹介」の項目に掲載するところが増えてきたようで、「このあたりにあるんだ」という認識がやっとならってきました。

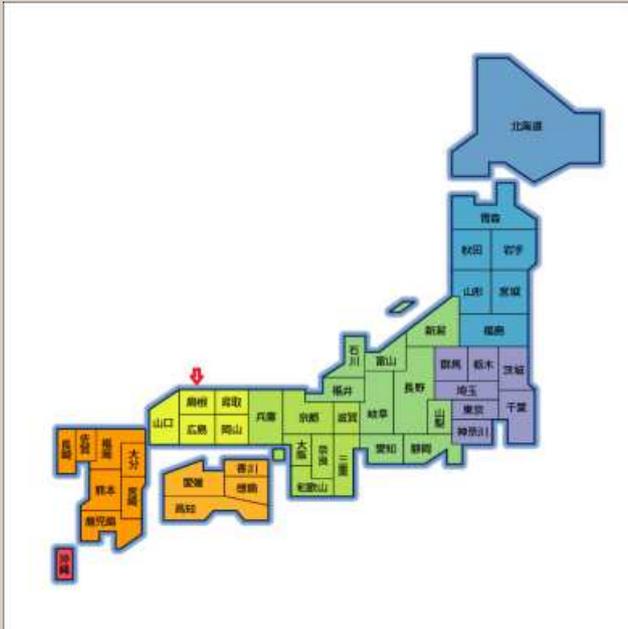
Googleマップだけでは、今回の「江津市（ごうつし）」の紹介には不十分なのでその下に補足の地図を加えておきます。

■Googleマップで江津市（ごうつし）を見る



■それでも位置がつかみづらいと思しますので

江津市（ごうつし）は、島根県にあります。島根県自体が「どこにあるかわからない！」と大多数の方がおっしゃるでしょうから、まず左に日本地図です。左の日本地図の赤い矢印が島根県の位置を示し、右の島根県の地図の緑色の矢印のあたりが江津市（ごうつし）です。ちなみに松江（まつえ）とあるのは県庁所在地です。日本地図でみれば広島県の上（←敢えてこの表現）、島根県内では、東西の真ん中より少し西、ということがわかり頂けるでしょうか。



■ 蛇足ながら山陰本線の車窓からの風景を

江津市（ごうつし）に東京方面から出張する時のルートですが、「東京（羽田）→出雲（いずも）」（JAL便）の路線でまずはひとつ飛びします。上の島根県の地図中、松江の横に湖があります。ちょうど松江の対岸が出雲空港です。出雲空港からは車移動か、もしくは、JR山陰本線で移動することになります。JRは地図におとしてありませんが（Googleマップの拡大表示で確認可能です）、かわりに写真を掲載しておきます。写真は、出張を終えて帰る快速電車の中から撮影したものです（2011年5月下旬）。少々の手振れと走行中の撮影でみずらいものもあるのは、ご容赦の程を。30分程度の走行距離の風景になります。地図で言えば緑色の矢印から右方向です。初夏の日本海が少し写っているのがおわかり頂けるでしょうか。冬は海の色が一転します。

江津市（ごうつし）を出て海岸線と並行してJRが走ります。東北地方でもそうですが、平地面積が限られるためどうしても海沿いに鉄道や道路といったインフラを敷くことになります。写真は、各列とも「左→右」に時間が経過します。風力発電も少し見受けられます（1列目の一番右がわかりやすいと思います）。住宅も海外に近いことがおわかり頂けるでしょうか。赤茶色の瓦が見受けられます。この地域特産の石州瓦（せきしゅうがわら）です。江津市内（ごうつしない）やもっと島根県西部にいくと赤茶色の瓦屋根を多く見ることができます。南欧に行くとも屋根の色がこれに似ています。ですので“山陰の南欧”と地元の人は呼んでいるとか、いないとか。太平洋側の工業地帯とは対照的なエリアである分、日本の家屋風景がそのまま残されているといっても過言ではないと思います。

観光情報は観光サイトでご確認いただくとして、そこには載っていない途中の移動風景でこの地域を知って頂ければ幸いです。





 [RETURN TO TOP](#) copyright©2012 Miraikaitaku Biz Lab all rights reserved.